

追手門学院大学は宮本輝ゆかりの地

追手門学院創立120周年を記念して、2005年5月、追手門学院大学附属図書館内に、『宮本輝ミュージアム』を開設しました。小説『青が散る』は本学が舞台となっており、第一期生である宮本輝氏が当時の生活をもとに描いた作品です。また、学内にある初代学長天野利武先生顕彰碑の碑文も同氏によるものです。



『青が散る』1982年 文藝春秋

初代学長 天野利武先生顕彰碑

ともどもに
同じ青春の
丘に駆けし者
また再び
この丘に降りて
集い合いぬ
われら再び生を受け
気品ある闘志秘めて
駆けゆかん
輝
(右写真碑文)



初代学長 天野利武先生顕彰碑

「青が散るによせて」

大学内の将軍山会館 第1展示室の壁面を飾る絵画「青が散るによせて」(制作:坂上楠生氏)は、宮本輝氏の小説「青が散る」をテーマに描かれたものです。



I N F O R M A T I O N

いばらき文学館ネットワーク

茨木市には、市の文化活動として、『川端康成文学館』『富士正晴記念館』が設けられています。『宮本輝ミュージアム』は、これら2つの施設とともに、市民や学生が文学に親しむ場を提供していきます。

川端康成文学館

昭和43年(1968年)日本で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成の“ゆかりのふるさど”である茨木市は、氏の業績を讃え、それを誇りとして、『茨木市名誉市民』の称号を贈るとともに、昭和60年(1985年)5月、川端康成文学館を開館しました。

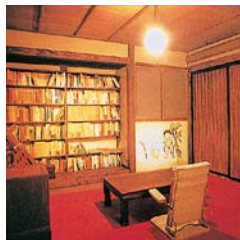
〒567-0881 茨木市上中条2-11-25 TEL:072-625-5978
[開館時間]午前9時~午後5時
休館日は上記へお問い合わせください。



富士正晴記念館

茨木市立中央図書館に併設されているこの記念館の資料は、昭和63年(1988年)富士家より茨木市に寄託されたものです。その総数は8万点に及び、一人の文学者が残した資料としては最大級のもので、館内には、富士正晴の書斎も復元されています。

〒567-0028 茨木市畑田町1-51 茨木市立中央図書館併設
TEL:072-627-7937
[開館時間]午前9時30分~午後5時
休館日は上記へお問い合わせください。



小説「泥の河」文学碑

第13回太宰治賞を受賞した小説「泥の河」の舞台となった土佐堀川湊橋南詰に、2011年6月石碑が建立されました。建立地は、小説の舞台となった場所であるとともに、宮本輝氏の幼少の頃の思い出に残っている風景地ということから決定されました。



土佐堀川にかかる湊橋南詰(大阪市西区土佐堀3-5)

伊丹市との連携活動

追手門学院大学と伊丹市は、2009年5月8日、「図書館等の連携に関する協定書」を締結しました。『宮本輝ミュージアム』の教育振興事業と伊丹市のことば文化などに関わる取組みについて、相互に広く周知に努めることにより、追手門学院大学と伊丹市の繁栄に寄与し、宮本輝氏の文学をはじめ、広くことば文化の発展に貢献することを目的としています。



伊丹市立図書館「ことば蔵」宮本輝コーナー

北大阪ミュージアム・ネットワークへの参加

「北大阪ミュージアム・ネットワーク」とは、大阪府北部の7市3町に所在する博物館・美術館・資料館が連携し構成されたもので、2007年度に活動を開始しました。地域の文化資源の整備・活用に積極的に取り組み、博物館活動の充実と地域文化の発展に寄与することを目的としています。

かんさい・大学ミュージアム連携への参加

「かんさい・大学ミュージアム連携」とは、大阪を中心とした関西圏にある12の大学ミュージアム(博物館・美術館・文学館等)が連携して、2013年度に立ち上げたネットワークです。大学組織の枠組みを越えて、長年蓄積してきた知的情報や資源を効果的に公開・双方向に活用することで、人材育成や地域貢献をめざすものです。

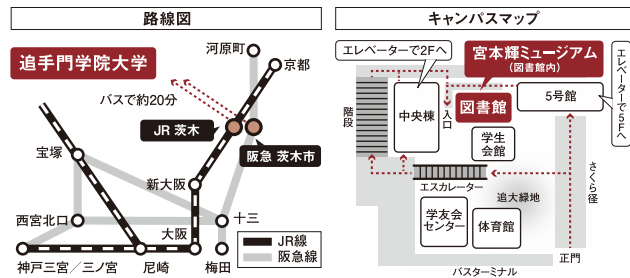


宮本輝ミュージアム



追手門学院大学附属図書館

Access



※詳細はホームページ「交通アクセス」でご確認ください。

Address

宮本輝ミュージアム(追手門学院大学附属図書館内)
〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 TEL:072-641-9638 FAX:072-643-9786
[開館時間] 図書館開館時間に準ずる。*詳しくはホームページでご確認ください。
URL:(附属図書館)http://www.oulib.otemon.ac.jp/
(宮本輝ミュージアム)http://www.oulib.otemon.ac.jp/teru/index.html



『宮本輝ミュージアム』は、作家 宮本輝の作品世界や想いを、そのまま感じていただくための場所です。

常設展示

宮本輝氏の現在に至るまでの年譜、幼い頃からの写真や愛用品の数々を展示しています。

企画展

宮本輝作品の世界を掘り下げた展示や、来場者の皆様にご参加いただける企画展を年に2回行っています。

愛用品展示

宮本輝氏の生誕から現在に至るまでの年譜と、万年筆や芥川賞正賞の懐中時計をはじめとする愛用品の数々を展示しています。上部には、ミュージアム開館の際に贈られた、同氏直筆の詩を掲げています。



作品展示棚

宮本輝氏の作品や関連書籍を、「作家活動のはじまり」「映画化された代表作」「海外を舞台にした作品」「青春時代を描いた作品」「父と子を描くライフワーク『流転の海』」「川三部作」「新聞連載小説」「シルクロードの旅」など、テーマに分けて紹介しています。貴重な原稿の複製も陳列しています。

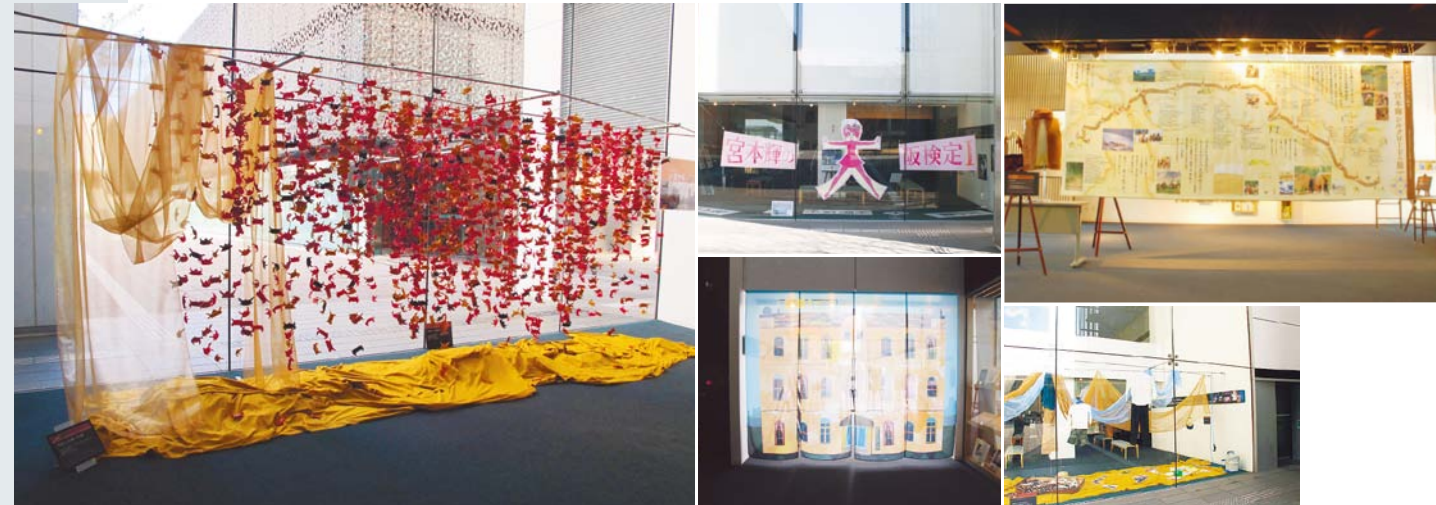


書籍棚

宮本輝氏の作品を自由に手にとってご覧いただけます(希望者には貸出も行っています)。視聴覚資料として、映画化作品や、本学制作によるオリジナルビデオ(『作家 宮本輝が語る』など)もあります。館内視聴ブースにてご鑑賞ください。



シンボル展示



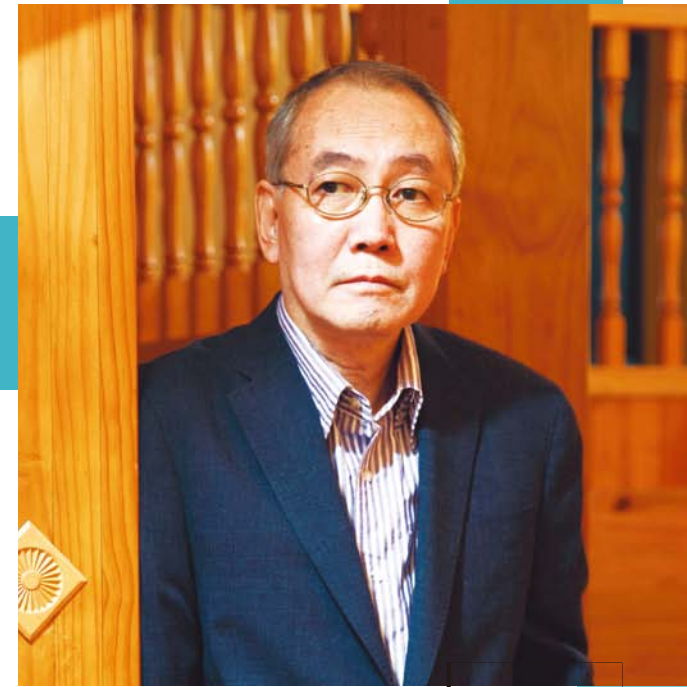
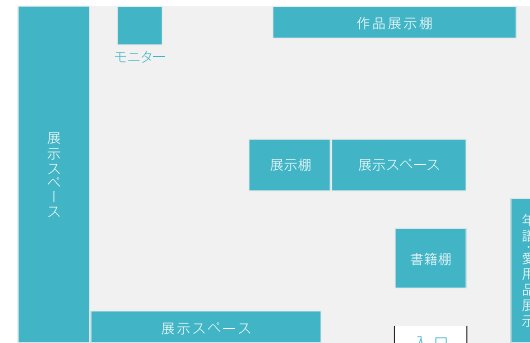
展示棚



作品紹介パネル



[ミュージアム略図]



宮本輝
プロフィール

1947年、兵庫県神戸市生まれ。1966年追手門学院大学文学部に入学後、体育会硬式テニス部に入部。創立したばかりの大学だったため、当時テニスコートもなく、その練習はコート造りから始まったのだった。1970年、追手門学院大学卒業。この大学生活が後に「青が散る」となる。1977年、処女作「泥の河」で第13回太宰治賞を受賞。その翌年に「蜚川」で第78回芥川龍之介賞を受賞。1981年、「泥の河」が小栗康平監督により映画化され、モスクワ国際映画祭銀賞受賞。これをきっかけに次々と作品が映画化、ドラマ化されることとなる。1987年、「優駿」で吉川英治文学賞を歴代最年少で受賞。2004年、「約束の冬」で芸術選奨文部科学大臣賞文学部門を受賞。2010年、秋の褒章で紫綬褒章を受章。物事の機微を捉えた作品で人々の心を魅了し続けている。